

2026 年度 棚田学会大会シンポジウム

棚田と米と消費者の関係を再考する ー令和の米騒動は何を問いかけたのかー

2026・8・22 土 14:00 - 17:30

会場：早稲田大学 早稲田キャンパス 3 号館 301 教室（東京都新宿区西早稲田 1-6-1）

参加費無料（要申し込み：裏面参照、WEB 参加可、会員外参加可）

「令和の米騒動」は、日本における米の供給の脆弱性と食料としての重要性を改めて浮き彫りにした。日本人にとって米は単なる主食以上の存在であり、祭礼等文化的にも重要な意味を持つ。そのため、米不足は生活不安のみならず国民の心理的動揺を招いた。他方、消費者行動にも変化が見られ、地元産米への関心が高まり、厳しい状況にある稲作農業の現状が再認識された。

令和の米騒動は、食料安全保障の重要性のみならず米と社会との関係性を再認識させる契機となった。米と日本人の生活、社会との関係を考える上で棚田はその象徴ともいえる存在である。棚田の価値は大規模化や集約化を通じた生産性のみでは測れない。水を貯え、下流へ流すことで洪水リスクを軽減し、多様な生物が生息する生態系を守る役割を果たす。里山文化の中核を担う景観資源でもある。さらに、棚田を維持する活動は地域住民や都市ボランティアを結び付け、農泊やエコツーリズムを通じた経済循環にもつながる。

本シンポジウムでは、令和の米騒動を踏まえ、生産者のみならず消費者の視点も交えつつ、棚田の保全と活用について改めて考える機会としたい。

13:00-13:30 棚田学会賞受賞者講演 シンポジウムに先立ち行います。ぜひこちらにもご参加ください。

（13:30 ～ 休憩）

14:00 ● 棚田学会大会シンポジウム 司会／小谷あゆみ（棚田学会研究委員 農ジャーナリスト）

1. 開会挨拶 高木 徳郎（棚田学会会長 早稲田大学 教授）

2. 趣旨説明 小谷あゆみ（棚田学会研究委員 農ジャーナリスト）

3. 基調講演 「今一度、米を考えよう」

佐藤洋一郎（農学者 ふじのくに地球環境史ミュージアム館長）

4. 事例報告

①山間地の農業振興と「鳴子の米プロジェクト」の 20 年

安部祐輝（NPO 法人鳴子の米プロジェクト理事 大崎市産業経済部長）

② 条件不利地の農地を「自給家族」が守る

鈴木辰吉（農村 RMO しきしまの家運営協議会事務局長）

③ よき食べ手と棚田の未来

たにりり（農政ジャーナリスト 東京農業大学大学院博士課程）

5. 総合討論 棚田から生産と消費との関係を結び直すことを考える

司会／松本雅夫（棚田学会研究委員）

6. 閉会挨拶 上野 裕治（棚田学会研究委員長）

◇ 交流会（18:00-20:00）一般 5,000 円、学生 2,500 円程度を予定

〈後援〉農林水産省・一般社団法人 地域環境資源センター



棚田学会
Rice Terrace
Research Association

講演者、報告者のプロフィール



佐藤 洋一郎（さとう よういちろう） 農学者、ふじのくに地球環境史ミュージアム館長

和歌山県串本町生まれ。京都大学農学部農学科卒業。農学博士。京都市文化功労者。国立遺伝学研究所、総合地球環境学研究所などでイネや農耕の起源、農業と環境の関係史などを研究。人間文化研究機構で人文学の情報発信の方策を研究、京都府立大学で和食文化の研究や教育に当たる。パソナ・シェフスコーラ校長。日本人にとって米とは何であったのか。稲作はどのような歴史的・社会的文脈の中で形成され、国家、地域、暮らしと結びついてきたのかを再考する。

著書に「米の日本史」（中公新書）、「稲の日本史」（角川ソフィア文庫）など。



安部 祐輝（あべ ゆうき） NPO 法人鳴子の米プロジェクト理事、大崎市産業経済部長

東北大学農学部を卒業後、東京の食品会社に就職、その後旧鳴子町に移住し鳴子町役場に入庁を経て現職。26 年間農政を担当。中山間振興のためツーリズムの導入、地域とともに「鳴子の米プロジェクト」を立ち上げ、つくり手（農家）と食べ手（消費者）が信頼でつながり、食と農の大切さを共有・再生産可能な価格を守り、地域や食べ手で支える農業を実践し 20 年。共著「つながるごはん」（農文協）。



鈴木 辰吉（すずき たつよし） 農村 RMO しきしまの家運営協議会事務局長

敷島自治区ときめきプラン推進委員、1953 年 1 月、現住所地に農家の長男として生まれる。豊田市役所に就職し、産業部長、総合企画部長を歴任、60 歳で定年退職。その後、市の機関として都市と山村をつなぐ中間支援機関「おいでん・さんそんセンター」設立、センター長に就任。

2019 年「地域支援型農業（CSA）」の考え方で「自給家族」の概念を導入し「源流米ミネアサヒ CSA プロジェクト」を立ち上げる。



たに りり 農政ジャーナリスト／東京農業大学大学院博士課程

農政ジャーナリストとして、お米の生産・流通・消費を横断的に取材・発信。米穀専門新聞にて長期連載コラムを執筆。消費者向けワークショップを継続的に実施し、食と農の関係を伝えている。著書に『いま知りたい お米と農家の話』（農文協、第 1 章・第 2 章担当）、『稲作 SDGs をお米のプロに学ぶ』（キクロス出版）など。消費者が受け身の存在ではなく、価値を理解し選択し続ける主体として関わる「よき食べ手」を提唱し、実践と発信を通じてその普及に取り組む。

〈申し込み〉

参加希望の方は下記 URL、右の QR コード、もしくは郵便にて必要事項を記入し送信して下さい。

<https://forms.gle/HNRRkm5n7rT3SZ9H8>

お問い合わせ: tanada.ac@gmail.com

申し込み締切: 8月19日(水)

参加申し込みの個人情報は棚田学会の連絡以外には使用いたしません。



郵便（〒184-0003 東京都小金井市緑町5-13-24
現代座会館 ふるきやら内 棚田学会宛）
で申込みの際は、以下の項目をご連絡下さい。

- ①氏名 ②メールアドレス ③住所 ④電話番号 ⑤所属
- ⑥会員／非会員 ⑦会場参加／オンライン
- ⑧交流会参加／非参加